

豊明市行政評価制度 「施策」 評価票

施策評価票番号	5
---------	---

1 ■ 施策の概要

1 - 1 施策の名称	水辺空間の保全と再生				基本施策コード	1 — 2 — 1
1 - 2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	産業振興課	評価票作成者	産業振興課長 成田敏和
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	生活環境「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」				
	項	水と緑の環境づくり				
1 - 4 施策の目的	潤いのある水辺空間、安全な水辺空間の整備等により、市民が自然と触れ合う機会の場を提供する					

	平成 2 2 年度評価 （前期の成果）	平成 2 7 年度評価 （全期間の成果）
担当課評価	A	
総合評価	A	

- 施策評価の判定基準
A ： 施策の目的を効果的に達成しているので継続する
B ： 施策推進の実施手法等に改善の必要がある

1 - 5 総合計画における基本成果指標		基本成果指標名	前期（平成 1 8 年度～平成 2 2 年度）			全期間（平成 2 3 年度～平成 2 7 年度）			指標の定義
			目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（％）	目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（％）	
			7 0 . 0 （％）	7 0 . 5 （％）	1 0 0 . 7 （％）	7 5 . 0 （％）			
		水辺の親しみやすさに対する満足度							河川やため池への関心度

2 ■ 施策の担当課による評価結果

評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	ため池は多目的側面を有し関係者も多く共通認識が必要。	整備後において維持管理業務が発生し将来的には地域との連携も必要。	当初計画より遅れを生じているが引き続き事業主体に働きかけていく。
	平成19年度	〃	〃	〃
	平成20年度	〃	〃	勅使池整備の2期事業について、計画的に事業を遂行することができた。
	平成21年度	〃	〃	〃
	平成22年度	ため池は、多面的な機能の側面を有しており、各関係者と共通認識を築きながら整備していくことが必要である。今年度においても、計画通りに勅使池整備の 2 期事業を遂行することができた。ただ、整備後において維持管理業務が発生するため、地域との連携が必要不可欠となってくる。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

3 ■ 参考情報

[illegible]